

グッズヨブ！世界と交流

日本代表・同志社国際高チーム



ドイツでの世界大会に臨むメンバーたち
(京田辺市・同志社国際高)

青少年がビジネスアイデアを競う「グローバルエンタープライズチャレンジ2014」の国内大会でこのほど、京田辺市の同志社国際高が優勝した。生徒たちは14日からドイツ・マイニンツで始まる世界大会に向け「世界の若者と交流を深めたい」と話している。

大会はNPO法人アントレプレに英文で企画書を提出し、動画にナレーション開発センター（京都市）によるプレゼンテーションも行つ中京区）が主催。3月にインター。生徒たちはアフリカ・サハラネット上で行われ21チームが参加砂漠のスイタンで周辺国が資金をした。同高からは3年生7人が、出して水耕栽培を行い、非常時には収穫した農産物を加入国に提供「世界的な異常気象を克服するする「食料保険」の仕組みを考えビジネス」が課題で、12時間以内た。

独で14日からビジネスアイデア世界大会

やるからには優勝

話し合つての企画づくりだけでなく、スーパーや運送会社に電話で問い合わせさせて栽培や輸送コストを調べるなど具体的なプランになるよう努力し、高い評価を受けた。メンバーの春山昂斗君(17)は「ビジネスの視点が分かってよかった」と振り返る。

渡航前に校内で渡航費用とスイタンへの寄付のためにタオルやペンも販売した。15カ国程度が参加するドイツでの世界大会では、新たな課題が出題され各国代表と競うほか、学生同士の交流も予定されている。リーダーの釣巻洋子さん(17)は「やるからには優勝して帰ってきたい」と話している。

(江藤均)